



主要な農作物の生育情報

平成22年度 第5号
(平成22年 8月 6日)
福島県農林水産部研究技術室



【水 稲】

7月以後も高温に経過し、梅雨明け（7月18日、平年より5日早い）後は特に高温多照となり、農業総合センターの生育調査では、幼穂形成始期が平年より1日～4日早まり、出穂期はひとめぼれで本部と会津地域研究所が8月1日、浜地域研究所が7月31日となり、平年より4日～6日早まりました。コシヒカリでは8月6日現在では出穂期に至っていない状況ですが、いずれの地域においても平年より数日早まる見込みです。

【大 豆】

農業総合センターによる調査では、出芽は良好、その後の高温により生育が進み、開花期が本部（郡山）や浜地域研究所では6日～7日早まりました。

生育量は、本部（郡山）は浜地域では平年並み以上を確保し、会津地域でもほぼ平年並みの状況であり、全般的に生育良好となっています。

なお、現地においては、6月下旬から7月中旬の降雨で一部圃場では湿害による葉の黄化がみられています。

農業総合センター作況試験（水稻、大豆）の調査結果はこちらを参考にしてください。

http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/sakkyou_index.htm

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

1回目の出荷盛期は、7月20日頃で平年並みとなっています。現在、生育は子づる上段から孫づるの中段を収穫中で平年並みですが、梅雨明け後の高温で日中の萎れや先細果が散見され、芯も弱い傾向になっています。

2 夏秋トマト

県南地方は、6月中旬から収穫が始まり、現在6段果房収穫中です。生育は平年並みで目立った病害虫の発生はありません。

会津地方の平坦部では、6段果房を収穫中です。生育は平年並みとなっていますが高温で草勢が低下し花落ちも見られます。

南会津地方では、7月12日より選果場が稼働しています。現在2段果房収穫中で、生育は順調です。

3 サヤインゲン

県中地方では、現在5月下旬から6月上旬定植のもので中段から上段付近を収穫中で、平年並みの生育となっています。7月下旬の風雨により一部でスレ果の発生があります。また、高温の影響で上段付近に花落ちが見られます。

双葉地方の前進栽培では、蔓の伸長も良く草勢が維持されています。高温による葉焼け症状が散見されます。

4 夏秋ピーマン

安達地方の露地栽培は、生育は平年並みですが梅雨明け後の高温により草勢が低下傾向にあります。また尻腐果の発生が多くなってきています。

田村地方の露地栽培は、本年は花落ちが少なく着果が多いため、収穫が遅れ気味でL級比率が高くなっています。このため、着果負担による芯止まりのほ場が散見されます。また高温乾燥により尻腐果の発生が見られます。

5 夏秋ナス

安達地方の露地栽培は、生育は平年並みですが梅雨明け後の高温乾燥で、草勢が低下にあります。

県中地方の露地栽培は、収穫開始が6月下旬から7月上旬となり平年と比べ5～7日程度遅れましたが、現在生育は回復しています。

6 アスパラガス

会津地方、南会津地方とも現在夏秋どりの収穫中です。生育は順調ですが、高温の影響で穂先の開きが見られます。病害虫では茎枯病、アザミウマ類の発生が散見されます。

【果 樹】

1 モ モ

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という）における「あかつき」の収穫始めは、平年並みの8月3日でした。また、県北地方では、7月28日から「あかつき」の選果が始まりました。

果樹研究所における果実肥大（暦日比較）は、「あかつき」が平年比105～109%と大きく、「ゆうぞら」が平年比102～103%とやや大きい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

2 ナ シ

果樹研究所における果実肥大（暦日比較）は、「幸水」が平年比99～101%とほぼ平年並み、「豊水」が平年比95～97%とやや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

果樹研究所によると、「幸水」の収穫期は平年より5日遅いと予測されています。

3 リンゴ

果樹研究所における果実肥大（暦日比較）は、「つがる」が平年比97～98%とやや小さく、「ふじ」は平年比101～102%とほぼ平年並みの状況です。果実の生育日数による比較では、「つがる」はほぼ平年並み、「ふじ」は平年よりやや大きい状況です。

【花 き】

1 キク類

露地栽培の小ギクや輪ギクでは、8月咲き品種が旧盆需要に向けた出荷が最盛期を迎えています。高温により開花はやや遅れ気味ですが、全国的な品薄により安定した価格で取り引きされています。

また9月咲き品種は、前年並みの草丈（前年比99%）と節数（同103%）で、順調な生育です。安達地方のスプレーギクは、概ね順調な生育で、出荷も旧盆需要期に最盛期を迎える見込みです。病害の発生については、白さび病の発生が一部で見られています。

2 リンドウ

6月以降の高温と梅雨の大雨により、草丈は全体的に伸びていますが、早生品種の開花は、空梅雨気味であった昨年と比較して5日程度遅くなっています。

南会津地方では、現在、尾瀬の夢の極早生が開花盛期となっています。

3 シュッコンカスミソウ

高冷地の越冬株栽培での出荷は、7月下旬に終了し、代わって新植株の出荷が順調に行われています。害虫ではハダニ類やハモグリバエが一部で発生しています。

4 トルコギキョウ

会津地方や相双地方の平坦部では、無加温促成栽培の出荷が7月中～下旬まで続きました。また会津地方の8月出荷作型では、6月から高温が続いたため草丈はやや短めですが、順調に需要期出荷を迎えています。病害虫では、アザミウマ類の発生が一部見られます。

5 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、7月25日および27日の降ひょう被害により、一部地域で出荷量を低下させましたが、現在、2年生株（品種：うつみね）の晩生種が出荷終盤となっています。1年生株の生育は、草丈90cm前後と良好で、旧盆需要期に向けて順調に出荷される見込みです。

6 カラー

露地栽培、ハウス栽培ともに生育は順調で、現在、出荷の最盛期を迎えています。

【飼料作物】

1 牧草

二番草は、作柄判定ほや畜産研究所では、順調に生育し梅雨明け後の7月下旬に収穫盛期となり、収量は平年並み、品質は天候に恵まれ、良質な牧草が収穫されています。

2 飼料用とうもろこし

飼料用とうもろこしは、作柄判定ほや畜産研究所では、順調に生育しており、平年並みからやや平年より早く生育しています。

一部の調査ほでは、ハリガネムシ等の被害や、排水の悪いほ場での湿害などが見られます。早生種では8月中旬に黄熟期となり、収穫期を迎える見込みです

【葉たばこ】

7月20日現在、収穫作業は3回目に入っており、平年並みの作業となっています。作柄は春先の天候不順の影響で畑によって差がみられ、やや小柄な傾向です。病害虫の発生は全体的に少なく、一部のほ場では、梅雨明け後の高温で根痛み、枯上がりなど生育不良株が散見されます。

【こんにゃく】

農業総合センターによる出芽・開葉状況調査では、1年生が平年よりやや早く、2年生がやや遅れる傾向となりました。また、多雨により、7月中旬に葉枯病の発病が散見されています。

【桑】

農業総合センターによる伸長状況調査では、改良鼠返しは7月下旬の伸長が前年に比べ大きな伸びとなりましたが、きぬゆたかでは生育が前年より劣っています。

病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部研究技術室 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyohou.html>